

林万次郎（はやしまんじろう）（1/2）

～玄界灘の海士の父～

太古の昔からこの唐津地方は大陸との交流と交易の拠点でした。

弥生時代後期にあたる3世紀半ばごろ、卑弥呼という女王が邪馬台国を治めていたころのことを、中国の古い歴史書『魏志倭人伝』には、「末盧国（現在の唐津）に着くと、人が住む場所は沿岸の狭い場所にあり、草や木が茂っている。この地方の人は海の深い浅いに関係なく、海に潜って魚やアワビをとり生活していた。」と書かれています。

また、日本人は、古くからアワビを神前にそなえ朝廷へ献上していました。ここ玄界灘は、暖流によって北上する魚群と日本海を南下する魚群が通過する国内有数の漁場です。

今から約4百年前、豊臣秀吉が全国の諸大名をこの名護屋の地に集結させ、肥前名護屋城と陣屋を築き、朝鮮へ出兵した時のことです。この玄界の海を職場とする名護屋漁民は、秀吉に頼まれ、朝鮮への水先案内をつとめたほうびとして、東松浦沿岸の無償入漁権とアワビを取る権利を「太閤お墨付」としていただき、さらに小笠原藩政時代には、毎年、アワビを藩主に献上、自由に漁業を行っていました。

明治になり、唐津藩が消滅するとともに無償入漁権の維持がむずかしくなり、また、平眼による原始的な海士漁業の不便を痛感した一人の海士があらわれました。後に玄界灘の海士の父といわれた林万治郎その人です。万治郎は、天保14年（1843年）名護屋浜の林三蔵の長男として生まれました。

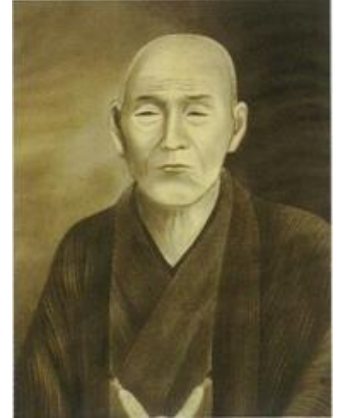
林家は、代々漁業（海士）を営み、万治郎も小さいころから父について海士の仕事をしていました。万治郎は、何事にも奮い立つ力をもった人だったと言われています。そのころの海士の海中の魚介を採る方法は、素もぐりで平眼による漁法がとられていました。ところが海中で眼をあげると痛いので、米ぬかや油を潜る寸前にまき散らして、海底を見透し、アワビを見定めてから飛び込み手探りで採っていました。時化（海が荒れ漁に出られない）の時など、同僚との話の中で必ず出るのが、「海士はきつかー、俺たちは早くやめたかー」とか「素もぐりは大変、水中メガネはできんとじゃろか、生活も楽になり、海士をやめんでよかー」などの海士の不満ばかり。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など



林 万次郎
(1843～1920)



海女「肥前国産物図考」
(佐賀県立博物館所蔵)

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

林万次郎（はやしまんじろう）（2/2）

～玄界灘の海士の父～

～1/2からつづく～

万治郎37歳のとき、壱岐方面で水中メガネが実用化されつつあると聞くと、大喜びして、自ら水中メガネの開発にかかりました。

それからは、寝てもさめてもメガネのことばかり、1人ランプの灯りをたよりに研究を重ね、ガラスの曇りや漏れ、不具合などの欠陥を克服し、明治17年（1884年）についに実用化にこぎつけました。父親から「明日の仕事は早かつそー、早よ寝ろ」と叱られる日々だったそうです。いわゆる平眼で潜っていたのを、潜水眼鏡をつけるとガラス面を通して海底が鮮明に、やや拡大して見え、アワビの発見率も増しました。また目の保護にもなり、漁獲量の増大につながりました。この水中メガネは、最初はフタツメガネで後に徐々に改良され、鼻を出して空気調整用のゴム管のついた真鍮製の画期的なヒトツメガネとなりました。

万治郎は、この水中メガネの使用を佐賀県に願い出ました。県は加唐沖等で行う実地実験をし、その結果、万治郎の水中メガネの使用が許可され、玄界海士たちは万治郎の自信と先覚に感嘆しました。メガネの使用によって、一度に多くの魚介をとることができるようになり、今のように漁期が限定されるようになりました。

玄界海士のため真鍮製水中メガネをつくり、これを普及させ、海士漁業振興の基礎づくりをした万治郎。万治郎の偉大な業績に対し、海士の間から功績を称え彰徳碑建立の気運が盛り上がり、大正13年（1924年）に、現在の名護屋保育園近くの小高い丘の海の一番見えるところに建立されました。毎年8月15日は万治郎の祭り日として線香が絶えなかったといえます。玄界の海士の敬慕の人となった万治郎は、大正6年（1917年）には、県知事表彰を受け、大正9年（1920年）漁民から惜しまれつつ78歳の生涯を閉じました。

分野 人物

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など



水中メガネ(名護屋浜)



彰徳碑

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html